（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0174700963		
法人名	株式会社　アルムシステム		
事業所名	グループホーム屈足ふれあい館		
所在地	上川郡新得町屈足柏町1丁目１００－４		
自己評価作成日	令和3年1月19日	評価結果市町村受理日	令和 3 年 4 月 14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174700963-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5　芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和3年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で、日々、笑顔で過ごして頂ける事を大切にしています。

地域の方から頂いたり、ホーム菜園で採れた野菜や山菜等を利用者さんと一緒に調理し、季節を感じられるよう、心掛けています。

また、四季折々の行事を企画し、利用者さんと職員が一緒になって楽しく過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は東大雪の山々と日高山脈の自然が望める市街地区に隣接し、畑のあるオール電化の木造一階建ての建物である。共用部のリビングと食堂は一体化し、対面式の台所からは利用者が寛いでいる様子が見える。リビングには季節感ある飾り付けとや利用者の折り紙作品などが飾られ、ソファーで寛ぎながらテレビを観ていたりと家庭的な雰囲気を醸しだしている。コロナ禍で利用者の外出も出来ないため、職員は利用者にゲームやカラオケ、体力低下を防ぐレクリエーションを兼ねたリハビリ運動する等、心身ともに楽しみを支援している。スーパーや床屋との馴染みの関係を大切に支援している。地域の小学6年生を対象とした町主催の「認知症キッズサポーター講座」に、職員が長年講師として参加し、認知症理解の人材育成に役立てているが、コロナ禍の為状況を見極めている。母体本部は道内に多くのグループホームを運営し、合同研修会などで人材育成、ケアの向上を図っている。近隣との交流を大切にしており、町内会行事や老人クラブ行事に積極的に参加し、近隣の保育園、障害者施設との交流を図って、地域の一員としての役割を担っていたが、現在のコロナ禍により自粛している。コロナ禍が早く終息することを願っている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関、廊下に掲示し職員間で共有している。	職員全員で作成した「利用者が住み慣れた地域で穏やかに過ごせるよう」にという思いを込めた理念を玄関や廊下に掲示し、日常的に確認し合い共有化を図り実践に結び付けている。	コロナ禍の中、より良いサービスやケアを提供していく上で現在の世情を鑑み、利用者の為の理念を見直したいという職員の思いがある。積極的なケア姿勢と世情に対応した理念の実現に期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年については日常的な交流は控えている。	コロナ禍以前は、スーパーや道で気軽に声を掛けられ、地域住民から野菜、山菜等が届けられ日常的に交流があった。近隣の保育園や障害者施設との交流もあり地域の一員として貢献している。現在は自粛しながら、密にならない外出を工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年については、予定していたが中止となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2月までは開催できていたが、4月以降は書面のみで報告している。	2ケ月に1回定期的に開催し現状では資料を送付する書面会議を行っている。町内会長・民生委員・家族代表、包括支援センターの委員に行事等の活動報告、入退院状況、ヒヤリハット、事故報告等を行い、質問、意見、要望などを聞きサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場、地域包括センターの方に困り事があれば相談、助言を頂いたり、運営推進会議にも参加をお願いしている。	市町村関係者とは日頃から連携をとり相談しやすい状況にある。毎年行っている地域包括支援センター主催の小学生対象「認知症キッズサポーター養成講座」には職員派遣、利用者との交流の場を提供している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については定期的に学習の機会を持ち、理解を深めている。玄関の施錠については夜間のみとしている。	グループホームを多く運営している母体法人が身体拘束廃止委員会を設置し研修会を行っている。職員会議で研修会内容を報告し身体拘束のないケアに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に学習の機会を持ち、言葉の虐待も含めて日頃から気を付けている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、以前に利用されていた方がおり、後見人さんとも連携出来ていた。今後も必要であれば、活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に面談し、ホームについて説明、ご本人、ご家族の意向を伺い、不安の解消に努めている。 契約時はすべての内容を読み上げて説明し、理解、納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんとは日常の会話から意見、要望の把握に努めており、ご家族には生活援助計画の説明時や電話等で意見、要望を伺っており、その都度、連絡ノートや毎月の会議で報告、検討している。	利用者の日常の生活や会話などから気持ちや要望をくみ取り把握に努めている。コロナ禍で面会が制限されているが「屈足ふれあい館おたより」を利用者の状況を加筆し毎月家族へ送っている。家族からの要望は連絡ノート等で職員間の共有やケアに結び付けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や申し送り等や施設長との個人面談を通して、聞く機会を設け、反映できるようと努めている。	朝のミーテイングや定期的な職員会議、必要に応じカンファレンスで職員の意見や提案を聞き、利用者に対するケアや行事などに職員の声を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な昇給もあり、勤務表の作成時も職員の希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、勤務を調整し出来る限り参加できるように配慮しているが、現状はコロナ感染予防の為、研修が中止となっており、参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、交流については、コロナウイルス感染予防の為、中止となっており、参加できていない。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人との面会や見学に来て頂き、お話しを伺い、また、事前の情報等でご本人の不安や要望を把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同様に、ご家族にも不安や悩み事や要望を伺い、把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に必要なサービスについてともに考え、必要時は医療専門職等に相談し、サービスに繋げるようと努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に出来る事を見極めて、出来る事をお願いしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで様子を伝えたり、必要時は電話や来館時にお話しし、ともに支えていけるようと努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの馴染みの関係を大切にし、日常の関わりの中から希望を伺い、関係の継続に努めているが、コロナ感染予防の為、外出や面会については実現が困難な状況となっている。	現在外出や面会制限がある中で、今まで培ってきた馴染の美容室、床屋、商店、知人との関係性が途切れず継続できるように努めている。行きつけの美容室に予防対策をとりながら訪問を依頼する等できる事を工夫しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で交流できるよう、職員が間に入って会話を繋げ、ゲーム等で楽しく交流できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転所された後もご家族と町でお会いする時があり、様子を伺っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望や意向の把握に努め、申し送りや会議で情報の共有しており、困難な場合もあるが、希望に寄り添えるよう検討している。	利用者の表情や行動から思いをくみ取っている。個人の思いには居室にて話しやすい雰囲気を作り対応している。面会制限の中「家族に会いたい」という希望には窓越しの面会を実現した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族に直接伺い、ご家族にセンター方式アセスメント用紙の記入をお願いし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や申し送り、記録等を通じて現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議や申し送りで話し合い、介護計画は6ヶ月ごとに作成し家族に説明、要望を伺っている。また現状の合わせてその都度検討し、見直している。	担当職員が、利用者の日頃の関わりから意向や心身状態をアセスメントし、職員会議等で情報共有し、話し合いで介護計画を作成している。家族とは来訪が自粛され直接面談できないが、要望を文書や電話で確認し、6ケ月毎に見直して利用者と家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送り等や居室担当職員の気づいた事を職員間で共有、見直しを行い、生活援助計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人から出た言葉を大切にして、ご家族とも相談しながら、その時々の必要なケアができるよう、迅速、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、体調に配慮しながら、楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9人の入居者のうち7人は入居前からかかりつけの町内クリニックに往診をお願いしている。他2名も同様に隣町の病院に受診しており、受診については基本的にはご家族にお願いし、必要時は訪問看護師に相談したり、文書、電話等で主治医に相談、連絡している。	入居前のかかりつけ医を継続して受けられるよう支援している。また医師の指示のもと、訪問看護を利用し利用者の健康管理を支援している。受診は家族が同行しするが、できない場合には職員が同行し受診している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師の来館時や電話でも相談し、適切な受診に繋がるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は情報交換や相談を行い、今年については入院中は面会できない為、電話等で状態の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化した場合の指針を説明、同意を得ている。重度化した場合はご家族、医療専門職と連携を大切にしている。	入居の際、重度化した場合の対応を説明し、同意を得ている。看取りはしていないが、重度化した場合はご家族、利用者、医療関係者と連携を密にし、方針を共有化しながら最大限の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置、消防署にも依頼し講習も受けている。今後も定期的に受講していきたいと考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、地域の方や職員の連絡網も掲示して迅速に対応できるよう努めている。	コロナ禍で消防署立ち合いはないが、年2回避難訓練を実施している。利用者の常備薬は、避難時にすぐ持ち出せるような対応がとられている。町内で水害・ブラックアウトを体験した為、災害時の備蓄品の点検や避難場所の確認を定期的に行い、会議や職員間で確認している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	穏やかな声掛けに努め、プライバシーに配慮して居室等で個別にお話しする事もある。	利用者本人の気持ちを大切に考えた対応ができるように心がけている。個人記録が載った書類が他者の目につかないように管理している。またプライベートな事や身体的な事、排せつ等について、利用者を尊重しながら個室で話しやすい雰囲気作りに心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りや選択技を単純化し、自己決定しやすいよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すぐには対応できない事もあるが、希望は大切にし個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容をお願いしている。また外出時には身だしなみを整えるようお手伝いしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に嗜好や希望を伺い、ホーム菜園や地域住民から頂いた旬の野菜を楽しんでもらえるようにしている。	水曜日から日曜日まで栄養士が考えたメニューに沿って、食材センターから食材が届くシステムで、利用者も一緒に食事作りをしている。利用者たちが育てた畑からの収穫物や頂き物等、たくさんの野菜を使いながら利用者好みを摂りいれ作っている。行事食は人気がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録に記載しており、咀嚼、嚥下に応じた食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、歯磨きをその都度声掛けし、出来ない場合はお手伝いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で情報共有し、その都度見直しを行い、自立に向けて支援している。	排泄チェック表で利用者ごとの状況を確認している。自尊心に配慮しながらさりげない誘導を行い状態に合ったパットやリハパンの使用を確認し、自立排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、水分摂取や牛乳が飲める方には薦めている。また主治医や訪問看護師に相談する場合もあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を基本とし、個別に湯温の調整や体調に配慮し長湯しないよう等、声掛けしている。	週2回を基本に、本人の希望や体調に合わせ入浴の支援を行っている。利用者の体調や状況を見極めながら、安全に入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に配慮しながら、体調や気分にも合わせるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については職員間で共有し、必要時は主治医や薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会や季節の行事を共に楽しめるよう企画している、また、できる事のお手伝いをお願いしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年については、散歩で外に出る事があったが、それ以外は出来ていない。	コロナ禍前は日常的に近所の散歩や、買い物に出かけ、春と夏には母体法人のワゴン車を利用して管外等遠出のドライブを楽しんでいた。現在は感染予防に配慮し、可能な範囲で戸外に出る機会を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん全員ではないが、ご本人の意向も大切にし、ご家族と相談の上、自分で所持している方や、病院と連絡を取り合い、病院送迎車利用でのリハビリ通院時にご自分で支払いをされている方も居られる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話の取次ぎをしたり、手紙のやり取りのお手伝いもしており、電話については、お相手の都合も考慮しながら支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その都度、温度管理に気を付けており、ホームの庭に咲いた季節ごとの花を生けたり、職員手作りで装飾をしている。	冷暖房完備され明るく広い食堂と居間には利用者一人一人がソファーで寛いで、ゆったりとした雰囲気を醸し出している。廊下には利用者の手作り作品や行事の写真が掲示され、季節感ある飾り付け等、生活感あるれる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で独りで過ごしたり、食卓でぬり絵をする等、自分のペースに合わせて過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や食器、衣類等の持ちこんで頂く事により、安心して過ごせるよう工夫している。	入居前に身体状況や動きの導線に合わせ、利用者と家族が相談しながら手すり等を設置して安全に努めている。本人の使い慣れたタンスや鏡などを持ち込み、心地よい居室環境作りの支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの居室横に写真とお名前を掲示し、間違える事がないよう、配慮している。また、必要に応じて居室の環境整備を行い、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		